

■ 表現研究科

渋谷ファッション&アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	表現研究科	絵画コース	2022年度	前期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	【デッサン研究 2単位】 絵画Ⅱ-1 グリザイユ 絵画Ⅱ-2 細密画	実習	中嶋明 清水健太郎 佐藤功

授業の到達目標 (目標とする検定)	<p>絵画を感覚的にとらえるのではなく、色と形を構造的に組み立てるシステムとして「明度」を優先した伝統的な制作技法を理解する。 不透明色、透明色の性質、またその扱い方の違いを身につける。</p> <p>静物画の細密描写を通して、描く対象への観察眼を深める。 描写技術を修得し、表現手段の一つとして活用できるようにする。</p>
----------------------	---

授業の内容	<p>期間:4/11~4/28 PM</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵画を感覚的にとらえるのではなく、色と形を構造的に組み立てるシステムとしての側面を理解していく。 ・不透明色、透明色の性質、またその扱い方の違いを身につける。 ・木炭によるデッサンから始め、油絵具のシルバーホワイトとピーチブラックの白黒の2色のみで描いていく。 ・形体と空間、材質感など油絵で描くデッサンとしてひとまず完成させる。 ・モノトーンの絵画として描き終えた後、透明度の高い有彩色で色彩を整える。 <p>期間:5/9~6/9 PM 20コマ</p> <p>6号~10号の静物画を制作する(有機的、無機的モチーフを組み合わせる)。</p> <p>スケッチブックへのエスキース。 キャンバスへの鉛筆による下絵描写、アクリル絵具での下絵の描き起こし。 油彩制作。</p>
-------	--

週	授業計画 及び 学習の内容
1	4/11前提講義 制作
2	制作
3	制作 4/28講評
4	5/9前提講義 ~5/12制作
5	制作
6	制作
7	制作
8	制作 6/9講評

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
別紙参照

授業持ち物	学校で準備する教材など
・F15号キャンバス ・クロッキー帳 ・木炭 ・油絵具 (アクリル絵具も可)	モチーフ

配付資料

渋谷ファッション&アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	表現研究科	絵画コース	2022年度	前期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	
必修	【構成研究 5単位】 絵画Ⅱ-3写実から具象表現へ 絵画Ⅱ-4平面化とマチエール	実習	佐藤泰生 清水健太郎 菊地達也	

授業の到達目標 (目標とする検定)	佐藤泰生先生による講義と実践的な指導によって 独自の視点でオリジナリティのある発想の作品制作を学ぶ。 (エスキースやドローイングに重点を置く) 絵画の具象抽象問わず普遍的な表現手法でもある「平面化」を実践し、 抽象の入り口に赴き、更にはその鑑賞能力を高める。
----------------------	---

授業の内容	<p>期間:6/13~7/14 PM</p> <p>人間と建物をモチーフに30号の油彩作品を制作します。現在を生きる私たちにとって“今”とは何かを考え、独自の発想でオリジナリティのある作品を制作してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1週目をスケッチ、写真資料の収集などに当てます。 ・その材料によってエスキースづくりをしてください。この時点で材料が足りないと感じたらさらに取材を重ねます。(この期間に作品名を考えることで、作品の思考を深めるきっかけになります) ・後半の1週間で本画を制作します。 <p>ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料集めはクロッキー帳一冊を描き切るくらいやるつもりで。 ・写真や雑誌なども含め材料集めは多角的に。 ・エスキースはできるだけ多様に作成する。 ・テーマに沿った画面構成を十分に検討する。 ・人物は普段の生活の中で気になったらクロッキーをする。 ・コステュームモデルを一週使うので、それを活かすことも考える。 ・写真をそのまま写すのではなく、楽しく描く方法をそれぞれ考えてください。 <p>期間:9/15~9/29AM/PM</p> <p>現代絵画の1様式としての「平面化」を試みます。</p> <p>「平面化」は、現代様式ではあるが実は決して新しくありません。ルネサンス以前の絵画は遠近法の未発達もあって、空間意識が異なり結果的に平面になっています。そのルネサンスによって確立された空間も1世紀も経つと遠近法に縛られない絵も出現し、数世紀後にはキュビズム台頭によってメインストリームから外れていきます。つまり絵画の歴史を辿ると、むしろ平面傾向の時代が長く、三次元的な空間を意識したのは数百年程度だったと考えられます。今では1部のジャンルにその影響を残しますが、現代の平面化はルネサンス以前と違い意識的に行っていて、遠近法を経験してきた背景の興行や形態の厚み等、自在にコントロール出来るように発達してきた感があります。</p> <p>内容</p> <p>モチーフは静物だけでも..、人物との組合も考えてみましょう。 エスキースを充実させ本画に入ります。</p> <p>※初日に小品制作を行いますのでF4号キャンバスなどの準備をすること。</p>
-------	---

週	授業計画 及び 学習の内容
9	6/13前提講義 ~6/16制作
10	制作
11	制作
12	制作
13	制作
夏期休業	
14	制作 9/14講評
15	9/15前提講義 制作
16	9/19祝日 9/20~9/22制作
17	制作 9/29講評

成績評価の方法	・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況
---------	------------------------

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)	別紙参照
----------------------	------

授業持ち物	学校で準備する教材など
<ul style="list-style-type: none"> ・普段使っているクロッキー帳や画材 ・エスキース作りに自分が必要だと思う資料、スケッチ、ノリなど ・キャンバスサイズ 30号 <p>※モデルさんが入るときは、各自が希望するポーズをリクエストしてもらいますので、各々考えておいてください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル ・モチーフ
配付資料	

渋谷ファッション&アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	表現研究科	絵画コース	2022年度	後期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	【表現研究演習 6単位】 絵画Ⅱ-5具象表現から抽象表現へ	実習	加藤健二 清水健太郎

授業の到達目標 (目標とする検定)	内的イメージの発掘と拡張について学ぶ。
----------------------	---------------------

授業の内容	<p>期間:10/3~10/20 PM</p> <p>絵画の制作は A:外界からの刺激を基本として変容してゆく B:内的世界(経験・記憶)を中心として想像力(イメージ)の拡張が個人レベルで複合化し実行されてゆきます。</p> <p>今回は静物をモチーフ(外的要因)のドローイングを通し、内的なイメージに変換し、新鮮な感覚との出会いをめざします。</p>
-------	--

週	授業計画 及び 学習の内容
17	10/3前提講義 ~10/6制作
18	10/10休日 10/11~10/13制作
19	制作 10/20講評

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
別紙参照

授業持ち物	学校で準備する教材など
<ul style="list-style-type: none"> ・アクリル絵の具、水性系の絵の具可(※筆の多さは重要) ・F15号大キャンバス(古キャンバス可) ・油絵の具一式 ※クラフト紙4~5枚分の集金をします(100円~200円程度)	静物モチーフ ・F20号大のクラフト紙一人4~5枚分(ロールで購入)

配付資料

渋谷ファッション&アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	表現研究科	絵画コース	2022年度	後期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	【研究制作 8単位】 絵画Ⅱ-6着彩(人体の構成) 絵画Ⅱ-7静物着彩(大型モチーフ)	実習	結城康太郎 清水健太郎 菊地達也 中嶋明

授業の到達目標 (目標とする検定)	<p>デッサン～エスキース～本画という流れを意識して制作に取り組む。 エスキースは時間の限り多量に制作し、色彩計画まで構築する。 人物のデッサンからスタートし、最終的に絵画作品として自身が何を表現したいのかを考える。</p> <p>デッサン～エスキース～本画という流れを意識して制作に取り組む。 エスキースは時間の限り多量に制作し、色彩計画まで構築する。 具体的なモチーフのデッサンからスタートし、最終的に絵画作品として自身が何を表現したいのかを考える。</p>
----------------------	---

授業の内容	<p>期間:11/7～11/22 AM/PM</p> <p>人物(モデル)をメインのテーマとして、一つの作品に仕上げます。 その際に、必要であれば教室内に設置した複数のモチーフを組み合わせて、より具体的なイメージを探求しても良いです。 (もちろん、人物のフォルムのみで画面構成しても良い) 制作の一連の流れを通して修了制作へ向かう絵創りの基本を学びます。</p> <p>期間:11/28～12/15 AM/PM</p> <p>教室内に設置した大型の静物モチーフを主題として一つの作品に仕上げます。 その際に、別途制作した人体デッサンを組み合わせて画面を構成しても良いです。 (もちろん、静物モチーフのみでもよい)</p> <p>設置されたそのままの状態を単に描写するのではなく、各モチーフを本来別々のものにとらえて、それぞれの位置関係や大きさも考慮したエスキースを作成することで、画面全体の構成やテーマの設定などがより個性的になる事をめざしましょう。</p> <p>前の課題と、本課題を制作する過程で修了制作への構想や技法・表現実験の足掛かりとします。</p>
-------	--

週	授業計画 及び 学習の内容
20	11/7前提講義 ～11/10制作
21	制作
22	制作 11/22講評 11/23・24休日
23	11/28前提講義 ～12/1制作
24	制作
25	制作 12/15講評

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
別紙参照

授業持ち物	学校で準備する教材など
クロッキー帳またはスケッチブック、筆記用具 油彩用具 25-30号キャンパス	・モデル 椅子 ソファなど ・背景のきっかけとなるモチーフ ・壁面装飾など

配付資料

渋谷ファッション&アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	表現研究科	絵画コース	2022年度	後期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	【修了制作 12単位】 絵画II-8修了制作	実習	清水健太郎 菊地達也 中嶋明

授業の到達目標 (目標とする検定)	1年間の学びの集大成として、外部に発表し鑑賞されることを目的とした作品を制作する。
----------------------	---

授業の内容	<p>期間:12/19~2/16 AM/PM (1/17AM クロッキーデッサン)</p> <p>修了制作について 本校は1年制の学校であるため、1年毎に修了となります。そのため1年間の学習の成果を問う形で、毎年修了作品を制作します。 現時点での各人の制作スキルを活かし、制作テーマを考え、集中的に作品を制作する機会が修了制作です。各人の制作の構想、エスキースを元に先生方と相談しながら進行していきます。</p> <p>テーマは自由です。</p>
-------	---

週	授業計画 及び 学習の内容
26	12/19前提講義・導入 ~エスキース 12/22絵画中間指導 冬期休業
27	制作
28	制作(1/17AM クロッキーデッサン)
29	制作 中間講評(日程は別途お知らせします)
30	制作
31	制作
32	制作 修了制作展で講評

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
別紙参照

授業持ち物	学校で準備する教材など
デッサン用具一式、油彩道具一式 キャンバス(50号)	・修了制作計画表用紙 (作品名・展示計画含む)

配付資料
